

SIDR

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 11 巻第 36 号

第 36 週(9月 5日～ 9月11日)

発行年月日:平成23年(2011年) 9月15日

発行 : 滋賀県衛生科学センター内

滋賀県感染症情報センター

電話:077-537-7438 FAX:077-537-5548

今週の感染症発生動向

- ◆ インフルエンザ入院サーベイランスが始まりました!!
- ◆ 腸管出血性大腸菌感染症多発警報を発令(本年度13回目)
- ◆ 手足口病の警報、発令中

★一類～五類全数報告感染症の発生状況(第36週)

- ・一類感染症――報告はありません
- ・二類感染症――結核 2名
- ・三類感染症――腸管出血性大腸菌感染症 3名 (患者 1名、無症状病原体保有者 2名)
(血清型・毒素型:O26・VT1 3名)
- ・四類感染症――報告はありません
- ・五類感染症――報告はありません

* 第33週に届出のあった麻しん 1名は、検査により麻しんが否定されたため、届出は取り下げられました。

県は「滋賀県腸管出血性大腸菌感染症多発警報発令要領」(平成20年8月18日施行)に基づき、9月7日(水)に本年度第12回目の警報を発令しているところですが、新たな発生の届出があり、腸管出血性大腸菌感染症が3週連続して2名以上発生したため、**本年度第13回目の警報を発令(延長)しました(発令基準①に該当)**。発令期間は、平成23年9月14日(水)から平成23年9月25日(日)までです。

なお、腸管出血性大腸菌感染症の発生状況については、(3)今週の発生状況に示すとおりです。

★定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(先週との比較、定点当たり患者数)

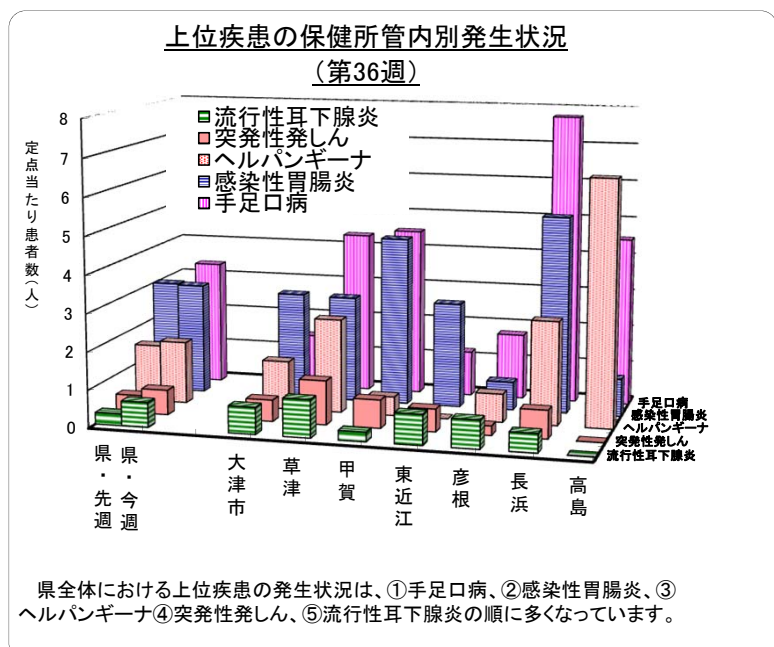
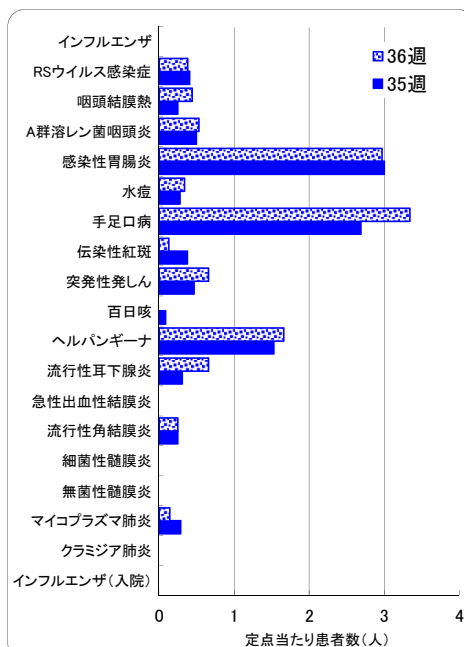
下記グラフに示す18疾患の患者報告数は、先週(321名)よりやや増加し、今週は358名となっています。今週、増加した疾患は咽頭結膜熱(プール熱)、手足口病、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)等で、減少した疾患は伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳等です(週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

感染症法の一部改正により、**インフルエンザ入院サーベイランスが9月5日から始まりました**。従来のインフルエンザ重症サーベイランスに対応するサーベイランスで、**インフルエンザの患者が基幹定点病院(指定医療機関)に入院した場合**、報告されることになっています。

また、手足口病では再び微増となり、第26週(6/27～7/3)以降、連続して県内全域に警報が発令されています。

「感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム」によると、警報および注意報の発生基準値を超えている疾患および保健所管内は以下のとおりです。

警 報――手足口病 (警報開始基準値 5.00、警報終息基準値 2.00) 草津、長浜および高島保健所管内
ヘルパンギーナ (警報開始基準値 6.00、警報終息基準値 2.00) 長浜および高島保健所管内



県全体における上位疾患の発生状況は、①手足口病、②感染性胃腸炎、③ヘルパンギーナ④突発性発しん、⑤流行性耳下腺炎の順に多くなっています。

1. 全数報告感染症(一類～五類)の累積報告数

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症等を把握することができます。

感 染 症 類 型	疾 患 名	平成23年 累積報告数		平成22年 累積報告数 ^(※1)		平成21年 累積報告数 ^(※2)	
		滋賀 (36週)	全 国 ^(※3) (35 週 ^(注))	滋賀	全 国 ^(※3)	滋賀	全 国 ^(※3)
一 類 感 染 症	報告なし	0	0	0	0	0	0
二 類 感 染 症	結核	217	20,281	251	26,704	256	26,996
三 類 感 染 症	コレラ	0	6	0	10	1	16
	細菌性赤痢	2	175	2	235	0	181
	腸管出血性大腸菌感染症	61	2,799	66	4,131	27	3,889
	パラチフス	0	18	1	21	0	27
四 類 感 染 症	E型肝炎	0	44	0	66	1	56
	A型肝炎	0	145	3	346	0	115
	オウム病	0	11	1	11	0	21
	つつが虫病	0	164	2	406	0	465
	デング熱	1	63	2	245	0	93
	マラリア	0	47	0	76	0	56
	レジオネラ症	10	487	10	751	8	717
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	2	536	7	845	10	786
	ウイルス性肝炎	1	171	3	222	3	223
	急性脳炎	1	193	0	241	8	526
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	82	2	171	2	142
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	152	3	127	2	103
	後天性免疫不全症候群	3	969	1	1,549	9	1,446
	ジアルジア症	1	45	1	80	0	70
	梅毒	4	513	9	621	3	691
	破傷風	1	79	0	106	3	113
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	39	2	121	0	116
	風しん	2	313	5	89	2	147
	麻疹	2	394	1	455	7	732
新型インフルエンザ 等感染症	新型インフルエンザ(H1N1) ^(※4)	0	0	0	0	138	12,654
動物の感染症	細菌性赤痢(サル)	9	15	0	59	0	34

注：36週の全国累積報告数については、次週の滋賀県感染症情報(SIDR)に掲載します。

* 1: 感染症発生動向調査事業年報暫定数(国立感染症研究所感染症情報センター、平成23年3月現在)。

* 2: 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、平成23年4月確定)。

* 3: 全国の累積報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています(国立感染症研究所感染症情報センター提供資料参照)。

* 4: 感染症法の一部改正(平成21年7月24日施行)により届出の対象となった報告数です(届出期間:平成21年7月24日～8月24日)。

2. 定点把握の対象となる五類感染症の週別および保健所管内別発生状況

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。
また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです。

(患者報告数=定点当たり患者数×定点数)

(1)疾病別・週別発生状況(平成23年第31週～36週、8/1～9/11)

定点区分	定 点 数	疾 患 名	定点当たり患者数 (↑ 前週より増加 → 前週と同じ ↓ 前週より減少)						週				
			31週	32週	33週	34週	35週	36週					
			8/1～	8/8～	8/15～	8/22～	8/29～	9/5～	32	33	34	35	36
インフルエンザ	53	インフルエンザ	0	0.02	0	0	0	0	↑	↓	→	→	→
小児科	32	RSウイルス感染症	0.06	0	0.09	0.16	0.41	0.38	↓	↑	↑	↑	↓
		咽頭結膜熱(プール熱)	0.41	0.28	0.22	0.25	0.25	0.44	↓	↓	↑	→	↑
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.63	0.56	0.50	0.50	0.50	0.53	↓	↓	→	→	↑
		感染性胃腸炎	2.78	2.97	3.09	3.06	3.00	2.97	↑	↑	↓	↓	↓
		水痘	0.84	0.78	1.00	0.66	0.28	0.34	↓	↑	↓	↓	↑
		手足口病	10.72	6.31	4.16	3.53	2.69	3.34	↓	↓	↓	↓	↑
		伝染性紅斑(リンゴ病)	0.28	0.25	0.16	0.16	0.38	0.13	↓	↓	→	↑	↓
		突発性発しん	0.56	0.47	0.59	0.88	0.47	0.66	↓	↑	↑	↓	↑
		百日咳	0.06	0.03	0.03	0.09	0.09	0	↓	→	↑	→	↓
		ヘルパンギーナ	3.91	2.69	1.75	1.66	1.53	1.66	↓	↓	↓	↓	↑
眼科	8	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.03	0.66	0.63	0.75	0.31	0.66	↓	↓	↑	↓	↑
		急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	→	→	→	→	→
基幹	7	流行性角結膜炎	0.25	0.88	0.38	0.25	0.25	0.25	↑	↓	↓	→	→
		細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	→	→	→	→	→
		無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	→	→	→	→	→
		マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0.14	0.29	0.14	→	→	↑	↑	↓
		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	→	→	→	→	→
		インフルエンザ(入院)*	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-

* : 平成23年9月5日からインフルエンザ入院サーベイランスが開始されたことに伴い、基幹定点からの報告数(定点当たり患者数)を-:未集計

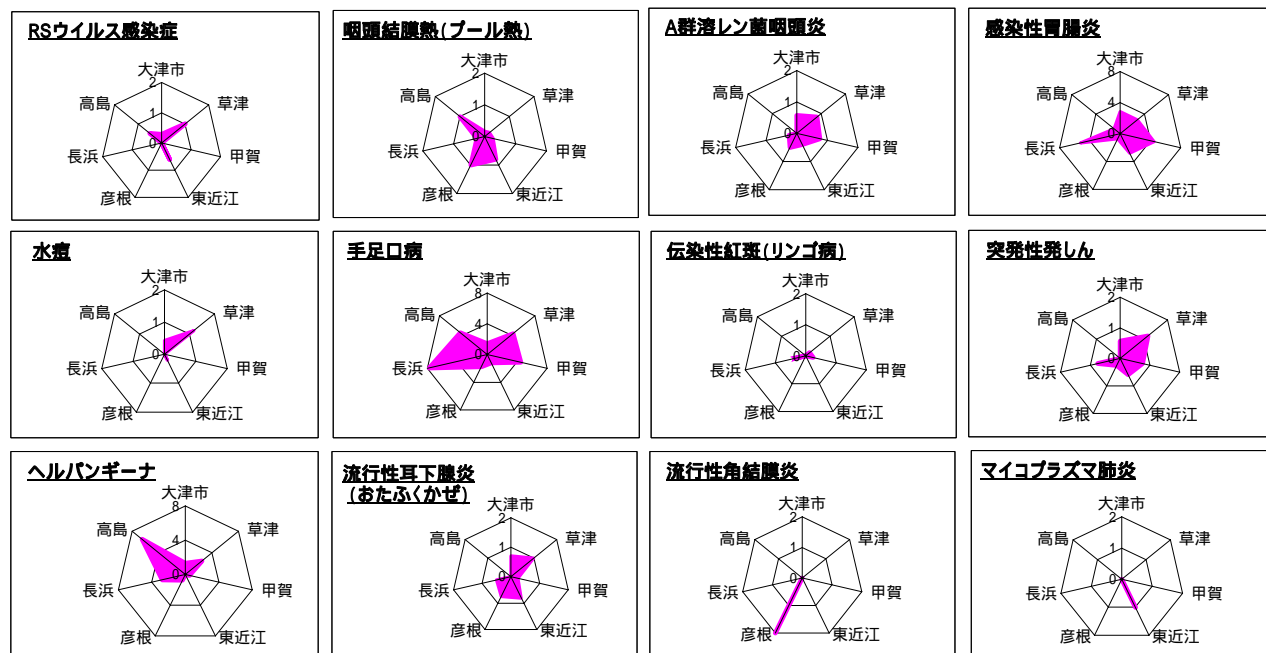
(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第36週、9/5～9/11)

疾 患 名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況(県)
	県	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルス感染症	0.38	0.29	1.00	0	0.60	0	0	0.50	
咽頭結膜熱(プール熱)	0.44	0.14	0.17	0.25	0.80	1.00	0.25	1.00	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.53	0.57	0.83	0.75	0.40	0.50	0.25	0	
感染性胃腸炎	2.97	2.86	2.83	4.50	2.80	0.75	5.25	1.00	
水痘	0.34	0.43	1.17	0	0.20	0	0	0	
手足口病	3.34	1.43	4.33	4.50	1.20	1.75	7.75	4.50	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.13	0	0.17	0.25	0	0	0.50	0	
突発性発しん	0.66	0.57	1.17	0.75	0.60	0.25	0.75	0	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	1.66	1.29	2.50	0.50	0	0.75	2.75	6.50	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.66	0.71	1.00	0.25	0.80	0.75	0.50	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.25	0	0	0	0	2.00	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0.14	0	0	0	1.00	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザ(入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	

赤・太字 は警報発生基準値(開始基準値または終息基準値)を超えています。
 青緑・太字 は注意報発生基準値を超えています。

0 1 2 3 4
 定点当たり患者数(人)

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)

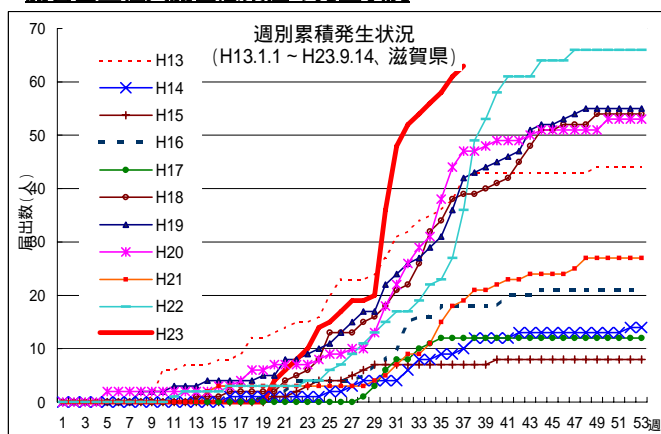


(3) 今週の発生状況

<手足口病>
 東近江および彦根保健所管内では、先週よりかなり減少し警報終息基準値未満(定点当たり患者数2.00)となっています。甲賀および長浜保健所管内では、先週より大幅に増加しています。また、年齢群別発生割合では、1歳からの報告が多く、全体の約38%を占めています。

<流行性耳下腺炎>
 県全体では先週より倍増し、大津市、草津、東近江および彦根でやや多くなっています。

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況



平成23年9月14現在の届出数は 63名 で、男性 33名、女性 30名です。診断の類型は患者 41名、無症状病原体保有者22名です。

血清型・毒素型は

O157・VT1 & VT2 35名 O157・VT1 2名
 O不明・VT2 1名 O157・VT2 7名
 O26・VT1 15名 O145・VT1 1名
 O6・VT2 1名 O121・VT2 1名です。

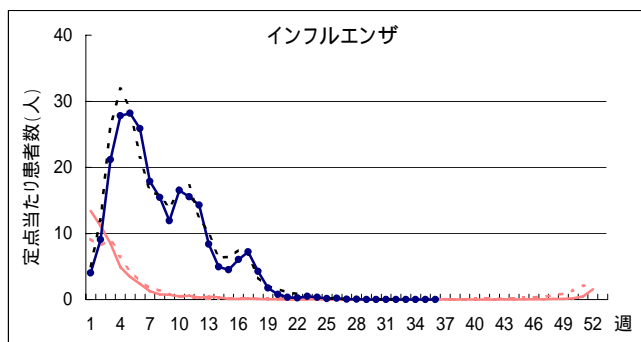
年齢は

0～9歳 12名、10～19歳 10名、20～29歳 18名
 30～39歳 9名、40～49歳 5名、50～59歳 4名
 60～69歳 2名、70歳以上 3名です。

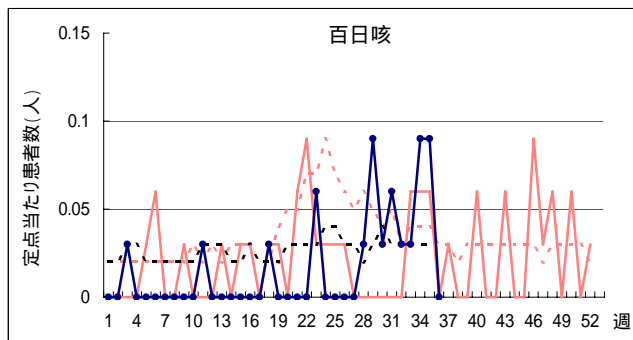
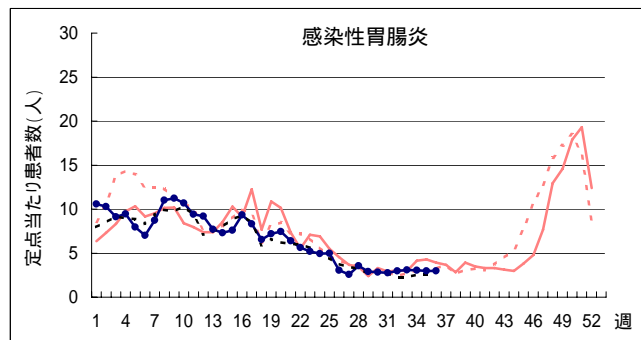
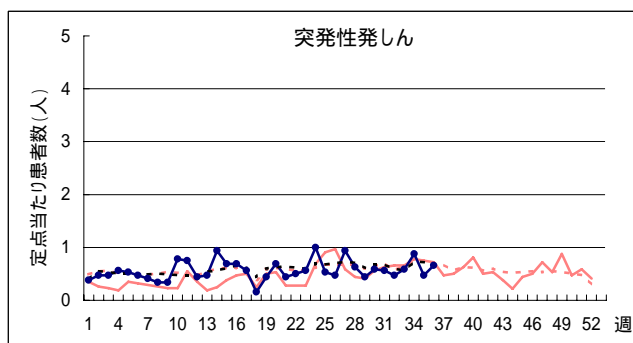
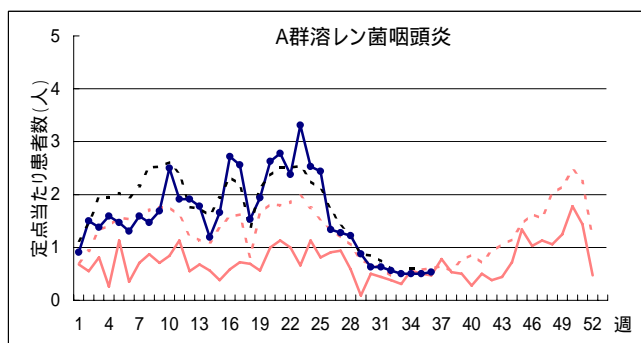
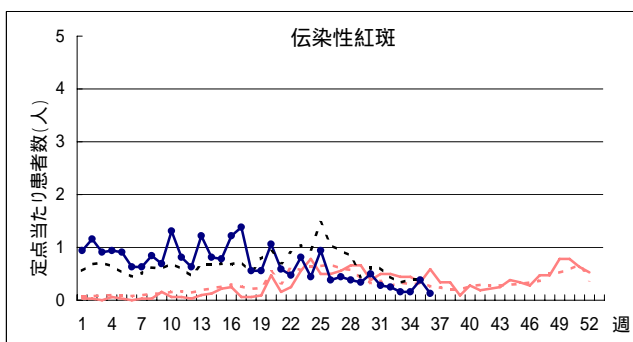
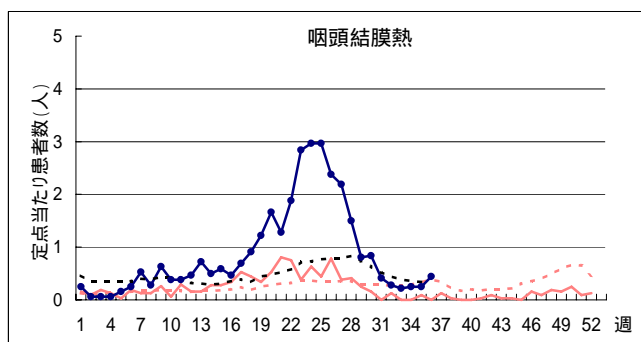
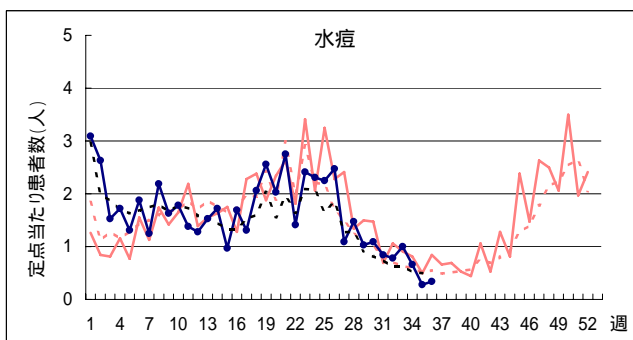
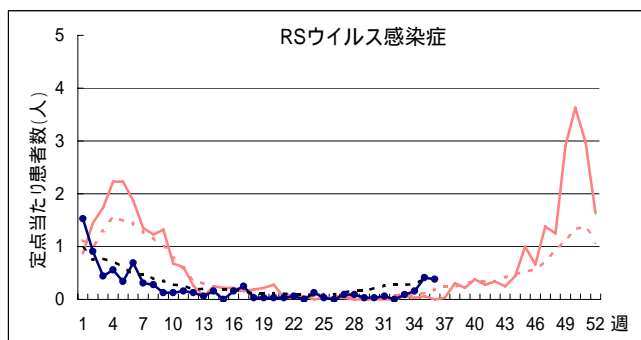
届出保健所管内別は

大津市 18名、草津 18名、甲賀 3名
 東近江 15名、彦根 5名、長浜 4名です。

疾病別定点当たり患者数(平成23年第 1～36 週、H23.1.3～H23.9.11)



H22 { 滋賀 ————
全国
H23 { 滋賀 —●—
全国



疾病別定点当たり患者数 (平成23年第1～36週、H23.1.3～H23.9.11)

H22 〔 滋賀 ———— 全国 〕
H23 〔 滋賀 ●——— 全国 〕

